



スマート農業や異業種参入で変わるか？日本の農業～施設園芸をとりまく現状～

環境分析を主業とする当社ですが、農業特化型の分析サービスも提供しており、近年は特に施設園芸（ハウス栽培や植物工場など）に携わる企業からの問い合わせが増えています。異業種からの農業参入の動きも頻繁に耳にするようになりました。しかし、令和5年に農林水産省が公表した資料「施設園芸をめぐる情勢」によれば、施設園芸は厳しい現状にあります。

日本の施設園芸生産者数は高齢化などの影響で減少傾向が続き、一戸当たりの施設面積もほとんど変わらず、大規模化や産業化の進展は限定的です。特に、養液栽培施設の面積が2022年に大幅に減少し、2003年の水準まで戻ったことは衝撃的でした。20年の積み重ねが一気に

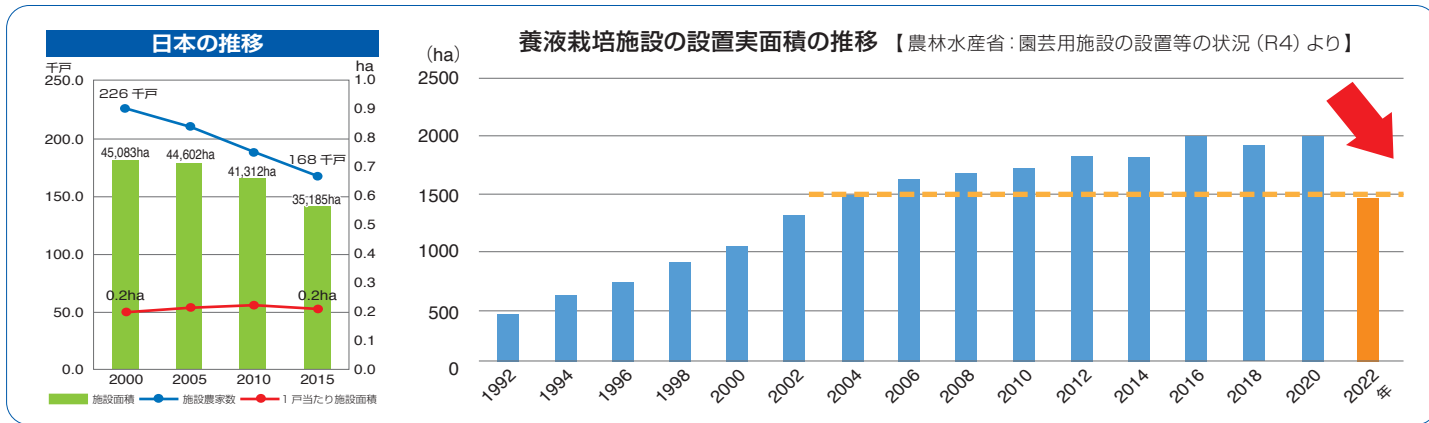
崩れてしまったようです。これは、電気代の高騰や燃料・肥料価格の変動、建設資材の価格上昇が大きく影響していると考えられます。

一方で、明るい展望もあります。新技術やイノベーションへの挑戦が活発に行われ、遊休施設を活用した完全閉鎖型植物工場や、養殖とのコラボレーションであるアクアポニックスが挙げられます。さらに、データ分析を駆使した作物栽培の最適化や、AIによる遠隔地からの農場管理といったデジタル技術による新たなビジネスモデルが期待されています。

燃料価格の高騰に対し、化石燃料依存からの脱却の取り組みや、施設園芸に欠かせない二酸化炭素施肥技術におけるイ

ノベーションが進んでいます。ロボットやAI、IoTを活用するスマート農業は現在最も注目される分野であり、気候変動への対応策としても施設園芸の重要性が再認識されていることから、今後の市場は復活し、右肩上がりになると見られています。生産者の意識変化も顕著で、特に水の安全性に関する問い合わせが増え、食品衛生への関心の高まりが感じられます。

私たちは、分析会社として、消費者の健康と安全に寄与しつつ、持続可能な発展を目指す施設園芸業界を注視していきます。そして、当社の分析サービスによって国内農業のさらなる発展とイノベーションに貢献したいと考えております。



東海テクノからのお知らせ

①環境キーパーソン育成セミナー開催

環境保全は、企業にとって避けて通れない重要な課題です。本セミナーは、現在の法規制の枠組みとその実施方法についての理解を深めていただくことを目的としています。環境保全の職務を新たに担う方、既に経験を積んでいる方も、この機会に是非ご参加下さい。

開催日時/2024年 7月2日(火)
13:30~16:45
(受付 13:00~)

参加費/無料

会場/四日市商工会議所
会議所ホールにて

詳細は当社
ホームページを
ご覧ください。

申し込みURL



<https://forms.office.com/r/NwK3bK5uKh>



②農林水産省「輸出植物等の検査機関」に登録

令和5年4月1日に施行された植物防疫法の改正に伴い、農林水産大臣の登録を受けた者（登録検査機関）が輸出植物等の検査の一部を行うことができるようになりました。弊社では上記登録を完了しておりますので、従来の農業支援分析サービスメニューに加え、輸出植物等の検査の実施が可能となりました。区分及び品目につきましては順次開発を進めております。詳細等はお問合せください。

詳細はこちら

【リンク先：農林水産省ホームページ内】

https://www.maff.go.jp/j/syoutan/syokubo/keneki/yusyutu_ken-sakikan.html

社員プチコラム

三浦 宏樹（環境事業部 営業Gr）

若いころに夢中だったバイクの趣味を再開する為、3年前にバイクを購入しました。晴れた日には自然豊かな公園や休憩ポイントを目指してソロツーリングに出かけて、風に揺れる木々の葉音や鳥の囀りを聞きながら、ゆったりとした時間を楽しんでいます。バイクを走らせない時にはネットで購入したパーツを取り付けて夢になっている自分に”あの頃から全く成長していないなあ”と感じてしまいました(汗)。ようやくコロナ禍も過ぎ去ったので、これからは気の合う仲間というんな所へツーリングに行ける事を楽しみにしています。



編集後記

今月の内容は、農業系の記事が多くなってしまいました。最近、野菜の販売価格も上昇しており、キャベツは例年に比べて約5割も高くなっています。主な理由は、天候不順による出荷量の減少だそうです。施設で栽培される野菜にはメリットとデメリットがありますが、今後は「植物工場」が日本の市場を支えることに期待しています。(みっちー)

